

タケトップ

水系・一液厚塗りタイプ・滑りにくい仕上がり

タケトップは、塗膜防水材や各種シート防水材の防水機能を長期に渡り維持するために欠かすことのできない軽歩行用の表面保護材です。また、優れた柔軟性、密着力、耐摩耗性は、防水層の保護のみならず、簡易防水や防塵として、コンクリート・モルタルの表面の保護にも、ご利用いただけます。

(非歩行用の水性防水層保護材には、タケトップPシルバー・Pグレイ・Pグリーンがあります。)

- 特長**
- 防水層への密着性および耐水・耐候性に優れています。
 - 表面は塗ったそのまま、耐摩耗性に優れたノンスリップ状の仕上げになります。
 - 高い硬度の骨材を含み、優れた歩行感と適度なザラザラ感とともに耐摩耗性も良好です。
 - 厚塗りができ、2~3度の塗り重ねで1~1.5ミリの厚さに仕上がります。また、厚く塗り重ねた塗膜は柔軟でひび割れしにくく下地に良く追従します。
 - 水性ですので臭いが少なく、引火の危険もないので取扱が容易です。
 - 作業性に優れています。タケトップにすでに含まれている骨材は保存状態での沈殿がほとんどなく、使用時に十分な攪拌で、流動性のよい塗りやすい液状になります。

- 用途**
- ウレタン防水層・ゴムシート層・その他防水層の美装、保護仕上げ
 - ベランダ・屋上・壁面の防水
 - コンクリート・モルタル床面の仕上げと防塵
 - 駐車場、通路などアスファルト面のカラー仕上げ

【ご注意】新設の防水層に塗布する場合は、暴露状態(屋外)で7~10日養生の後、直接塗布が可能です。養生が不足の時、さらに強い接着が望まれる場合、

- ◎ ウレタン防水材の場合は、硬化歩行可能に仕上がった後、タケシールNO.400プライマーを塗布(塗布量0.1kg/m²)し、乾燥硬化後塗布願います。
- ◎ 各種シートの場合は、洗剤を使ってデッキブラシ等で表面をよく洗浄し油脂分を除去します。その後、表面への接着を確認後塗布願います。塩ビシートは、種類により、上塗りのタケトップが硬化しなかったり、ベタつきを生じる場合がありますので、製造元に確認願います。

防水層に水溜りが発生する箇所は、あらかじめ不陸調整を行い水勾配の確保が必要です。水溜り部分は仕上材がひび割れたりめくれたりする原因になるばかりか、防水層の劣化を早めますので改修が必要です。

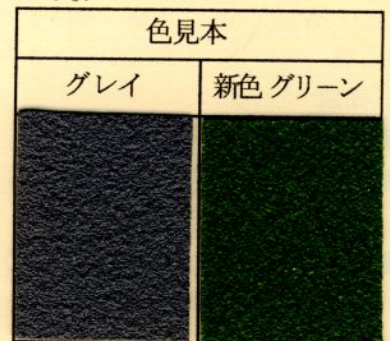
標準塗布量 1.5 kg以上/m² (1回当たりの塗布量は、1 kg以下/m²で、乾燥後2回以上塗り重ね願います)

標準色 グレイ/グリーン (調色はご相談ください。10缶以上でお願いします。)

荷姿 20 kg/缶 5 kg/ポリ容器

性状

粘度 (20℃/ポイズ)	攪拌後 25±5 ポイズ
比重 (20℃)	1.5
加熱残分	70%
酸・アルカリ度 (PH)	8.0±0.5



塗膜物性

試験項目	判定結果	試験条件
硬さ	70	ショア-A
破断時の伸び (%)	120	
付着性	25/25	テープ剥離試験
耐水性	異常なし	浸漬7日間
耐アルカリ性	異常なし	10%カセイソーダ1週間浸漬
耐酸性	異常なし	3%硫酸水溶液浸漬7日間
耐候性	異常なし	2年間屋外暴露



下地の種類 /工程	ウレタン防水層	加硫ブチルゴム シート防水層	ゴムアスファルト シート防水層	砂付アスファルト ルーフィング
下地の清掃	防水層は、良く硬化乾燥後、ゴミ、土砂、油汚れを除去します。 油汚れは、デッキブラシ等を用い中性洗剤を希釈した洗浄液で洗浄後、水洗します。			
前 処 理	施工直後の防水材表面には品種によって密着不良の原因となる、シリコーン・ワックス等が付着している場合があります。曝露状態で、7～10日放置するか、品種に適したプライマーをご使用下さい。			
塗布作業	電動攪拌機で十分に攪拌すると、良く流れるようになります。 そのままか、重量で2%の清水で希釈しローラー刷毛、左官コテ等で塗布します。 塗布量は、2回塗りで、1.5 kg/m ² が標準です。 塗装1回目は、下地に擦りこむように押さえ加減で塗りこみます。 表面が良く乾いた後、2回目を塗布します。 1度に厚塗りしますと、乾燥が遅れ、下地への密着が著しく低下しますので、1回毎の塗布量は、1 kg/m ² 以下で御使用ください。			
養 生	乾燥時間は、約2時間(塗膜厚1mm/20℃)ですが、物を置いたりする場合などは、12時間以上の養生が必要です。			

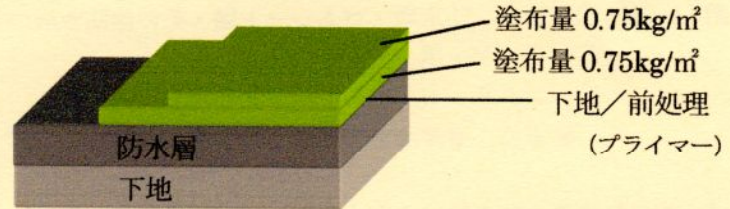
ご注意

●防水材では、種類により、密着不良、黄変、タック等のでるものがあり、ウレタン防水材の場合には、“タケシール#400プライマー”を、ゴムシートには“タケシールゴムシートプライマー”を下塗りします。

●塗装時の気温は、5℃以上でお願いします。

また、本品を冬季は、凍結させないよう、

保存にご注意願います。



簡易防水/防塵美装

下地の種類 /工程	コンクリート・モルタル面
下地の清掃	ゴミ・ホコリ・砂・こけなどは、よく取り除き水洗いをします。
プライマー	乾燥後、下地に“タケシールAQモルタルプライマー”を塗布します。 下地に良く染み込むよう、ローラー等で均一に塗布します。1～2時間後、乾燥後もう一度、塗布します。(プライマーで使用の塗装用具は、タケトップで使用しないで下さい。)
下 塗 り	乾燥後、約2時間後、下塗りをおこないます。 電動攪拌機で、十分に攪拌すると、よく流れるようになります。 ローラー刷毛・左官こて等で、下地に擦りこむように押さえ加減で全面にむらなく塗りこみます。 塗りにくい場合は、5%までの清水を加えて希釈します。
上 塗 り	晴天時、20℃で、2～3時間を目安に、よく表面が乾いたのち上塗りをします。一度に厚塗りをすると乾燥が遅れ、場合によっては、下地への密着が著しく低下しますので、1回毎の塗布量は、1 kg/m ² 以下で御使用ください。
養 生	歩行するときや、重い荷物を置く場合などは、夏で1日、冬で3日以上以上の養生が必要です。

ご注意

- コンクリート・モルタル表面に亀裂がある場合、下塗りの前に、補強クロスを取トップで貼り付けます。
- より強固な密着力が望まれる場合には、プライマーに浸透性下塗り材、水性エポキシ系“タケシール AE-211プライマー”または、溶剤系“タケシール#E-500プライマー”を御使用ください。
- 不陸の補修には下地モルタルとの接着に優れた、カチオン系セメントフィラーの“タケモルカチオン EV (乳剤)”と“タケモルフィラーA-2 (粉体)”のセットをご使用ください。気乾養生後にプライマーを塗布します。ただし、タケモルカチオン EVを使用した塗装用具は、タケトップでご使用にならないで下さい。洗浄しても、本品が急激に凝固し使用できなくなる場合があります。

